

# 新潟県 公民館月報

昭和56年1月号

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川崎町2-9・県林業会館内】

【電話・新潟 (0252) 24-6073】【振替新潟  
4094】

発行人 会長 石井耕一

編集人 事務局長 本田 清

【定価1部 70円 年共 840円】



## 新潟市郷土資料館

資料館の建物は旧新潟税関庁舎であった。五港時代の税関として現存する唯一のものである。多少の改変を経ながらも、旧態をとどめ今日に至つており往時の運用状況をよく偲ぶことができる。わが国海外交渉史にも、建築史上にも貴重な遺構である。昭和四四年に重要文化財と史跡に指定されている。この絵は、昭和四五、四六年に復原された建物で、当時の表玄関にあたるところである。

新潟の代表として新潟美人が挙げられていたが、その裏には新潟が河港として発展しようとした苦闘が秘められている。阿賀川分水によって河口の水深が維持できなくなり、寂れる一方の新潟市に、水深と、後背地の獲得が、明治、大正、昭和の三代の悲願であった。新潟市は港と共に生きていく、生きていかなければならない。資料館には、その歴史が納められている。

絵・文 和泉 正義

新潟市中央公民館使用者団体連絡協議会長・朝彩会(油絵)所属

# 第29回全国公民館振興大会

## 公民館予算確保へ布石

### 国会議員メンバーが次々にあいさつ

第二十九回全国公民館振興大会(柏崎中央公民館事業係)が、さる十月四日東京の赤坂プリンスホテルで開かれた。全国大会が、この振興大会と研究集会の本場で実施されるようになってから、この同日を迎え、すっかり型はまった進歩ぶりとなった。

当日、この会場の参加者は、都道府県公連の関係者、市町村長など約八百名。

田村美公連会長、服部公振連会長が、優長職員として、河内孝司氏(新潟市中央区公民館主事・勤続二十五年)以下十二名が永年勤続職員として表彰された。このほか功労者として前全公連副会長尾正岡氏に表彰状が贈られた。ついで文部大臣田中龍夫氏が祝辞を述べ、来賓の公民館振興国会議員のメンバーも次々と祝意が出るなど、勉強の場が、かたがた盛り上がった。

「国の施設補助措置は縮減の勢が多く、各省庁ごとには、補助の差があり一貫性がなく、このため定額補助の公民館は弱い。みられがちで損をしている。この辺の問題点を根本的に取り直す必要があるのではないか。」とする意見が出るなど、勉強の場が、かたがた盛り上がった。

最後、別稱のまじな宣言、決議を採択して閉じた。

(表彰状を受ける職員代表)

長の掌々たるあいさつにはじまり、たぎりに表彰式に入る。昭和五十五年度全国優良公民館職員四十三名と同公民館永年勤続職員百五十七名。本県からは田辺ゆき子



(祝辞を述べる田中文相)

#### 表彰状

殿

賞殿は永年にわたり公民館の職員として職務に精励され、地域社会の振興に著々貢献されつつあります。まことに感謝に堪えません。

ここにその努力をねぎらい、これを表彰します。

昭和五十五年十二月四日

全国公民館連合会

会長 田村 賢作

#### 永年勤続職員

- |               |    |     |
|---------------|----|-----|
| 新潟市中央公民館事業第一係 | 長  | 芳 子 |
| 中央公民館事業第三係    | 長  | 子 臣 |
| 中央公民館濁川分館     | 主事 | ナ 男 |
| 中地区公民館        | 長  | 司 子 |
| 中地区公民館主査      |    | 彦 海 |
| 坂井輪地区公民館主事    |    | 流 郎 |
| 石山地区公民館長      |    | 男 治 |
| 石山地区公民館主査     |    | 子   |
| 西地区公民館事業係主査   |    |     |
| 中央公民館南浜分館主事   |    |     |
| 京ヶ瀬村公民館主事     |    |     |
| 牧村公民館主事       |    |     |
| 吉田町公民館主事      |    |     |

このあとNHKアナウンサー川上裕之氏による「この伝統」と題した記念演説を聞く。

川上氏は、「開会演説のごとにも地方ごとと異なるい方があり、読み方がつかない。しかし、そこには犯しがたい歴史があり伝統がある。いわゆる機運語では表現がたい文化的影響を背負って生きている」とは、があるわけ

# 館振興大会



(川上アナウンサーの記念講演)

## 宣 言

公民館が、生涯教育の中心的推進機関として、今日ほど期待されるときはなく、また地方公共団体の健全かつ円滑な発展のため、その果す役割がいまほど重視されることはない。

このような現状にある公民館が、飛躍的な発展を遂げ、強力に社会教育を実践することこそ、わが国教育の目的が確実に達成し得るものと信ずる。

このため、公民館施設・設備の整備と、公民館職員の充実、向上をはかることが当面の急務であり、この実現なくして、公民館の使命は達し難いことを憂い、ここに関係者一堂に会し、第29回全国公民館振興大会を開催した。

よってこれらの当面する緊急事項が、1日も速やかに実現されるよう、関係方面に強く要望するものである。  
右宣言する。

昭和55年12月4日

第29回全国公民館振興大会

## 決 議

1. 昭和56年度公民館施設費補助金145億2,000万円、生涯教育事業振興費補助金24億4,400万円の実現を期する。
2. 公民館職員の身分・資格を明確にし、館長・主事の常勤専任制度を義務化するよう、社会教育法を早急に充実すること。
3. 地方交付税における公民館費の算定基準を抜本的に改善し、単位費用の大幅な増額をはかること。  
右決議する。

昭和55年12月4日

第29回全国公民館振興大会



(居並ぶ国会議員メンバー)

## 公民館関係法令・解説

公民館長・公民館主事・公民館職員・公民館運営審議会委員・社会教育主事・社会教育委員・教育委員会関係者・公民館を利用する人・社会教育関係団体関係者等の必携の書として広く活用されています。

### ◎内 容

教育基本法・社会教育法・社会教育法施行令・公民館の設置及び運営に関する基準規程・通達「公民館基準の取扱いについて」解説つき。

A 5判34ページ 1部 250円 (送料実費)

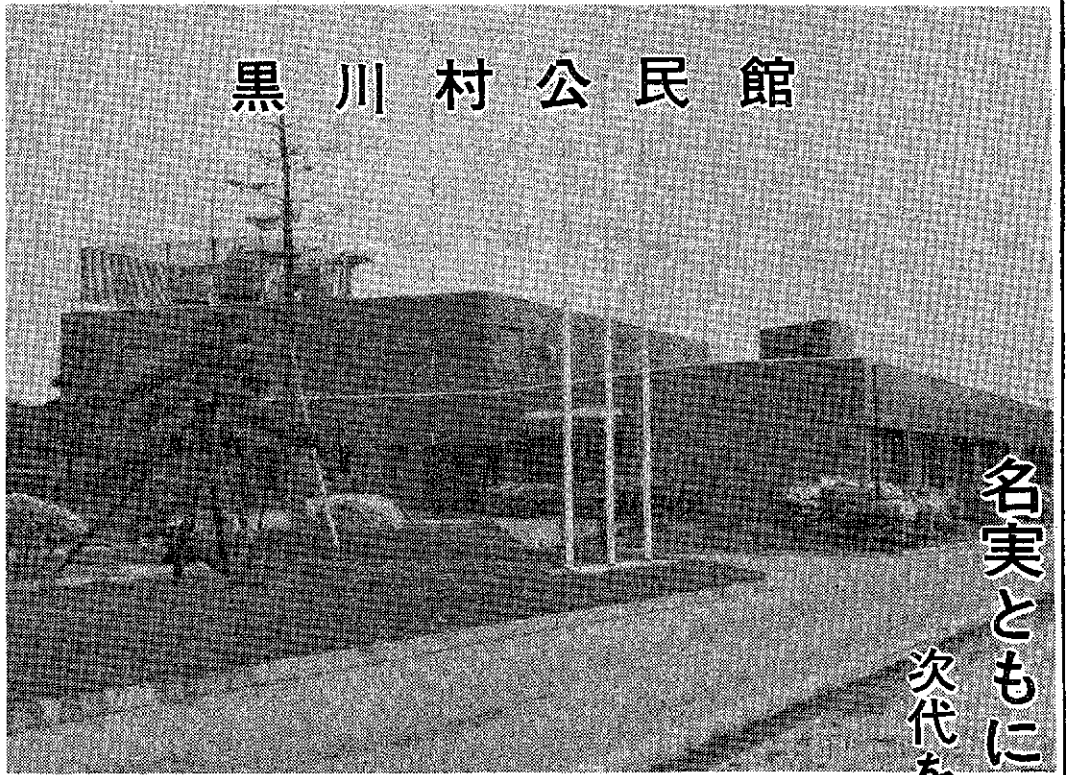
### ◎お申し込み先

〒 951 新潟市川端町2-9 県林業会館内  
県公民館連合会事務局 電話 0252 (24) 6073

# 新生公民館繁盛記

(1)

## 黒川村公民館



### 名実ともに「村の茶の間」

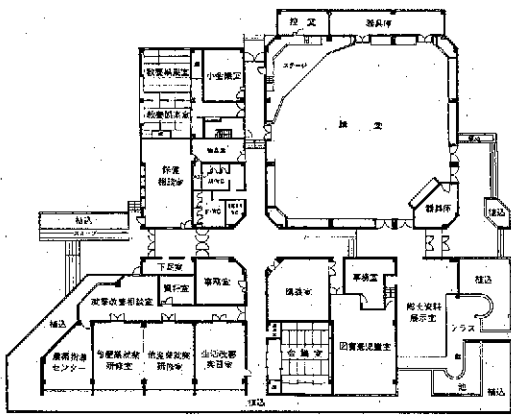
### 次代を担う村民を育てる

本村は県の北東部に位置し、面祭会場地胎内平、舞鶴朝日国立公園一八〇平方キロ、人口六、五八〇の奥胎内には、四季を通じて大勢の人々が村内外から訪れ、豊かな自然の中で生活にやすきと胎内川流域を中心に二十七集落に分かれて点在している山村です。

産業の基幹である農業も、昭和四三年の羽越水害を契機に生産基盤の整備が進み経営の近代化と生産性の向上が図られ、近年は農村工業の導入によって余剰労働力の村内定着とともに夫婦共働きの第一種兼業型の様相を呈してきました。

一方豊勝の地帯ケ橋、全園植樹では農産物貯蔵室、生涯改善実習

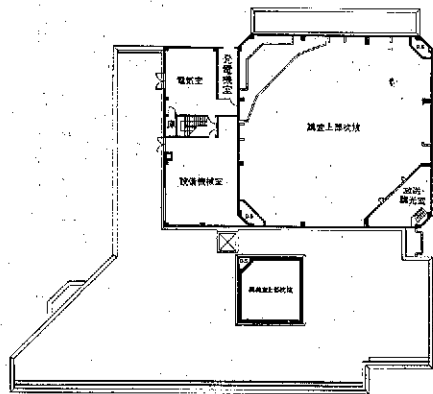
平面図



健康相談室などを備え、村民豊かな村づくりをスローカンが気遣い語り合える「村の茶の間」として建築面積一、八六〇平方メートルの建物が完工し、ますますこのように賑わい新しくなるともに公民館活動に対する住民の関心も徐々に高まり、各種教室への参加やグループ活動による施設の利用は連日盛況でこれに対応する指導体制の充実が今後の課題となってきました。

一方高度経済成長下の中で山村地域も大きく変化し、部落の共同作業や祭礼行事などを通じて結わけてきた地域社会の連帯感の低下と、青年・婦人団体の組織力の弱体化をいかに克服せざるがが事業の重点目標となりました。

このため村では昭和五十三年度に昭和六十年を目標とした新しい黒川村総合計画を策定し「健康で



近年まよやくこれらの運動が効を通じ、昭和五十三年には青年男子の相撲、昭和五十四年には青年男子バレーボール、昭和五十五年には青年女子ソフトボールチームが県青年大会をそれぞれ優勝し、三年連続全国青年大会出場の実績を勝ち得ることができました。

また当公民館では次代を担う青年の健全育成を願い、ポイスカウト、緑の少年団の事務局と指導者担当し昭和五十六年本村で開催予定の全国書樹祭と緑の少年団活動発表大会に備え活動を続けて

います。(黒川村公民館長・伊藤

# 妙高高原町

## 公民館

### 多様なニーズをさばく

#### 専任職員の増員を期待

現在の公民館は、昭和五十二年二月に隣接して町民体育館が新築一月に完成したもので、国鉄妙高駅公民館として、多くの町民高原駅から歩いて二十分、林や公に利用されている。施設が新しく園の緑も豊かな自然環境に恵まれ、なり多くの利用者があるといつたところにある。また、昭和五十とは公認はしつことである

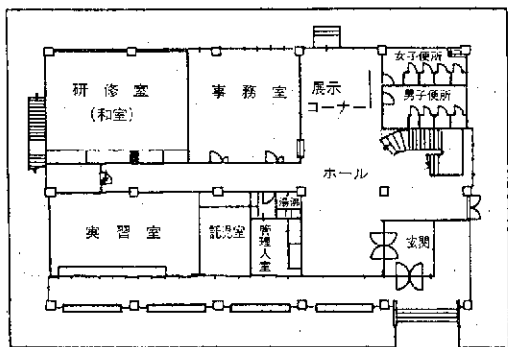


(熱心な料理講習会)

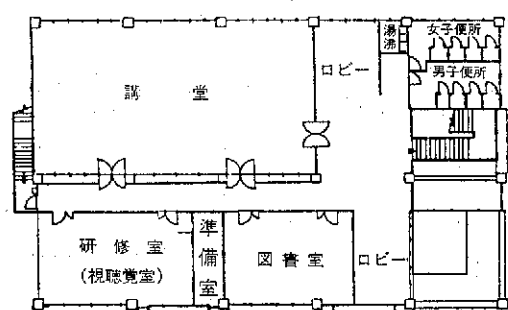
が、いろいろな問題もでてくる。それは、公民館職員の不足から、施設管理に追われ、本来の公民館活動に支障がでてきた。当町は観光地といつこともあり、公民館の利用は町外者もかなり多い。そのため、そのつと施設利用といつて請けもちなければならない。特に夏草期間(7月中旬

句、九月上旬)については隣接の体育館とあわせ、町外者利用が集中するため、電話や取出しの取りつきでつてしまつた。当町では、公民館に隣接して本来「公民館」は、市町村、その他一定区域内の住民のために養育生活、即ち教育、学術及び文化に関する各種事業を行なう……と、社会教育法に位置づけられてゐるが、現在の当町のおかれてゐる立場では、やはり得なりのかもしれないが、なにかわきれない一面もあるといつたかである。近年、住民から出される要求は、高度な複雑な内容をもつてゐるので、これに対応するといつこの信頼を得られない。独自の施設、職員の増員も必要である。妙高高原町公民館長・岡田

平面図  
一階



二階



# 味方村公民館

# 新生公民館繁盛記

(2)

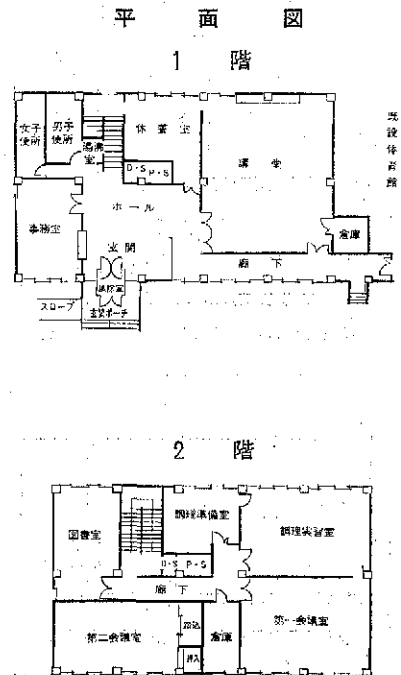
## 大風合戦の拠点にも 体育館と公民館がドッキング

味方村公民館は、昭和五十五年一月十九日  
を建設し、その体育館に接続して  
公民館を新築、社会教育、社会体  
育が両者一体となり活動する拠点  
となった。本村の概要は、人口約  
四千九百人、千世帯の農村で、中  
の川沿いに位置し、対岸の自根  
市と経済文化など密接な交流があ  
る。

本村の特別の行事に、その自根  
市で行なわれる大風合戦があ  
る。五月晴れの空に舞う勇壮な松  
巻、若者が力を合わせて一つのこ  
に取組む三百年余の伝統行事であ  
る。それに、国の重要文化財津川  
邸が村の中央部にあり、十一月三  
日文化の日を中心に、村民無料見  
学日を設け、その時に津川邸内で  
菊花展を開いている。

新築を機会に一段の発展を期し、  
役員、職員が一致協力活動に励ん  
でいる。二、三の事例をあげる  
と、三分館と供会を育成し立派  
に活動を続けている。地区のお祭  
りに共みとして参加したり、子  
供風合戦も牛々盛んになってい  
る。青年団活動では、その組織率  
を高め、現在七割分館だけ開い  
ている青年講座を、各分館でひら  
くことをねらいとしている。また

青年団主催で、献血運動を実施し  
たり、体育館完成後のスポーツ熱  
を中心になら進んでいる。本  
年度の第二十九回全国青年大会  
に、味方村青年団女子のバレーチ  
ームが集代表として出場すること  
になっている。一方文化面では、  
公民館完成後はいろいろな行事  
があり、夢中で進んでいる。本年  
度



### 公民館の使用について

#### ● 開館の時間

午前 9 時 00 分から午後 9 時 30 分まで。

#### ● 使用の申請

使用予定日の 5 日前までに定められた申請書を教育委員会に提出して許可をうけること。(ただし委員会が認めた場合はこの限りでない。)

#### ● 使用の制限

次の各号に該当する者に対しては使用を許可しない。

1. 社会教育法第23条の規定に反すると認められた者。
2. 使用の目的又は内容が公の秩序及び風俗をみだすおそれがあるとき。
3. 使用の内容又は方法が建物及び付属設備を損傷するおそれがあると認められた者。
4. 上記のほか、委員会が不適当と認められる者。

#### ● 使用上の注意

公民館の利用者は次の事項を守って下さい。

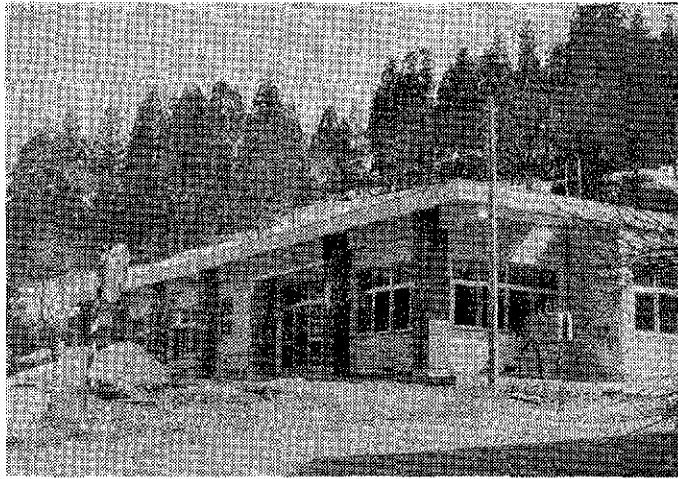
1. 許可を受けた日以外は使用しないこと。
2. 使用の権利を譲渡、又は転貸しないこと。
3. 建物及び物品等をき損又は汚損しないこと。
4. 使用時間を守ること。
5. 使用後は原状に復し、清掃して係員に引渡すこと。
6. 火気には充分注意し、定められた場所以外においての喫煙及び火気を使用しないこと。

(味方村公民館長・薄田 敏)

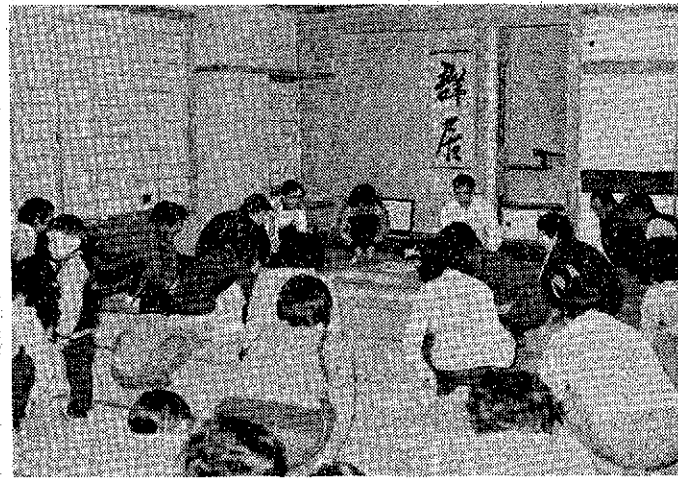
# 小千谷市東山公民館

## 動き出した地域活動

### 闘牛の里の新しい施設



(東山コミュニティセンターとして建つ)



(自きょう術講習会)

### 色紙(表紙絵)募集

本紙の表紙をかざる絵を募集いたします。公民館の絵画教室での傑作、利用グループの中で絵をよきする人の作品など、なるべく各々筆で書かれたものを期待しています。

絵の内容は「新潟・旧跡・文化財」などのほか、表紙に合わせたものでも構いません。

郵送又は西国手紙でお願いいたします。

東山公民館は五四年四月に第1回学習と集会の施設として、また、東山地区地域作りの拠点として第2回、旧吉野町の東山村であった。ここは小千谷特産の鯛と、他流の鯛とを競う闘牛の故郷である。

ここには小学校区ごとに、小栗山・南河原・旗谷の三分館が置かれていた。この三分館をあわせて

学習活動については山内部のため、隣町へ行くにも急ぎや昨の力がかかりすぎるため、本館だけで行うことは困難がある。従って本館行事として計画されたものも、各分館、時には部落公会堂を会場としてこの止むを得ない場合もある。

写真の活動は本館で行われた自きょう術講習会風景である。

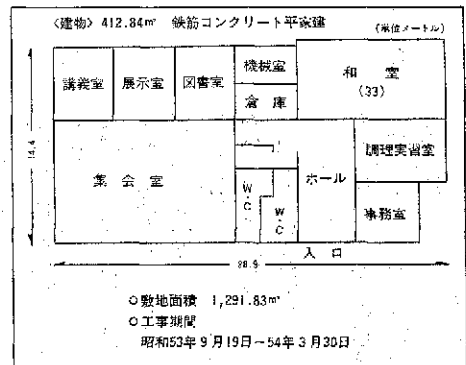
地域づくり活動としては、本館の開設によって、東山地区の地域活動と社会教育活動が大きく動き出しつつあるということが

学習活動については山内部のため、隣町へ行くにも急ぎや昨の力がかかりすぎるため、本館だけで行うことは困難がある。従って本館行事として計画されたものも、各分館、時には部落公会堂を会場としてこの止むを得ない場合もある。

写真の活動は本館で行われた自きょう術講習会風景である。

地域づくり活動としては、本館の開設によって、東山地区の地域活動と社会教育活動が大きく動き出しつつあるということが

### 平面図



## わたしのあしあと

戦中・戦後の激動と混乱を生きぬいた11人は、戦時下の初恋の人との別離、婚家から吹雪の子連れ脱出行、父や夫の転勤につれて浮き草のように移り住んだ人生——などを赤裸々につづり、しかもなお、ねばり強く明るい「雪国の現代女性」の生きざまを浮き彫りにしている。

柏崎市中央公民館・婦人大学セミナー  
女性史コース刊

- ・ B6判 328 ページ
- ・ 1 冊 1,200円 (〒 250円)
- ・ 申し込み先

〒 945 柏崎市諏訪町6-6  
柏崎市中央公民館・事業係  
電話 02572-2-2637

# あの頃のこと

## 公民館のあり方を模索 (1)

山崎 昇

高血圧の体を気にしながら、久  
し振りの会合で飲んで、ほろ酔い  
気味に話してみよう、昔懐かし  
い公民館月報とともに原稿ので  
願である。

酔眼朦朧として二重にうつる  
文字を判読しながら、懐かしい人  
からもらった窓文に一刻も早く返  
信をしようと、斯明の仰ったよ  
うな女給早返  
応答の返答を書  
いてみたもの  
の、後口ペンを  
執つてみるべ  
いと誓つてなが  
らば五短は  
忘れ去ることな  
り」の言通りの細かいところは大  
方忘れてしまつていた。



山崎 昇

「と云つても、どこかの証人の  
ように「記憶にございません」と  
も言つておられぬので、あれやこ  
れやと頼いせぬべし、回想の糸  
車をとぎつてきた。

研究課題に取り組む  
私が長岡市の社会教育課長兼中  
央公民館長の二足の草鞋を履いた  
のは、昭和四十四年がらむか三

ケ年開くらひであったが、今振り  
返れば私の人生にとっては複雑  
経験であり、印象深い期間でもあ  
つた。

当時、長岡市の社会教育委員に  
は日本農林文学賞受賞者の河内幸一  
郎氏、新潟日報長岡支社長の七重  
平也氏、長岡女子短大学長の山崎  
信をとりかき、斯明の仰ったよ  
うな女給早返  
応答の返答を書  
いてみたもの  
の、後口ペンを  
執つてみるべ  
いと誓つてなが  
らば五短は  
忘れ去ることな  
り」の言通りの細かいところは大  
方忘れてしまつていた。

スポーツ施設等の社会教育施設の  
運営における総合的調整機能の発  
揮」と言う、と僅い課題を与えら  
れたものであった。

一方、中央公民館運営審議委員  
会は小中学校校長代表、青年団、婦  
人会等各団体の代表二十名で構成  
され、教育委員より諮問された次  
大テーマとして「公民館の設置  
と活動体制について」であり、さ

静 座  
浅間 勝衛

に分館を充実させた分散方式をと  
るか。いろいろの議論の分かれる  
ところであった。

そして社会教育委員と中央公民  
館運営審議委員との合同会議で決  
定案として教育委員が答申したも  
のである。

基本目標の設定  
さて、公民館と言ふものはあり  
がたのもの、都会はもとより、  
どんな農村に行つても模範部  
落の中央部に編入しており、あち  
こち旅行の際、時間の余裕をみて  
いろいろ参観することができた。

その結果、大都市等で社会教育  
課と公民館の分れているところ  
は、計画と実践の調整がう  
まくゆかず、何かしらしくりし  
ていない感じのところも聞かあ  
つた。

それにしては、古  
う、二足の草鞋を履いては話  
もあるが、長年の兼職の場合は外  
うまくいって来た。

また昭和四十年代は都市化傾向  
の著しき時代でもあった。  
私などは集会所のたぐいに物置  
的な都市化の進むことは止むを得  
ぬにしても、心の都市化傾向だけ  
は向とが防ぎたいと願ひ断えたこ  
とを今でも記憶している。  
そして「ふるさとの良さ」を見  
つめよう、つまり、越後人特有  
の忍耐力、純朴さ、親切さ、嗜  
むべき味の出るスルメのような  
人間味——こんな越後人の良さを  
助長したいと願つたものである。  
今や政府も「地方の時代」と言  
中である。

それが反して当時の長岡市をよく  
う、二足の草鞋を履いては話  
もあるが、長年の兼職の場合は外  
うまくいって来た。

また昭和四十年代は都市化傾向  
の著しき時代でもあった。  
私などは集会所のたぐいに物置  
的な都市化の進むことは止むを得  
ぬにしても、心の都市化傾向だけ  
は向とが防ぎたいと願ひ断えたこ  
とを今でも記憶している。  
そして「ふるさとの良さ」を見  
つめよう、つまり、越後人特有  
の忍耐力、純朴さ、親切さ、嗜  
むべき味の出るスルメのような  
人間味——こんな越後人の良さを  
助長したいと願つたものである。  
今や政府も「地方の時代」と言  
中である。

それが反して当時の長岡市をよく  
う、二足の草鞋を履いては話  
もあるが、長年の兼職の場合は外  
うまくいって来た。

また昭和四十年代は都市化傾向  
の著しき時代でもあった。  
私などは集会所のたぐいに物置  
的な都市化の進むことは止むを得  
ぬにしても、心の都市化傾向だけ  
は向とが防ぎたいと願ひ断えたこ  
とを今でも記憶している。  
そして「ふるさとの良さ」を見  
つめよう、つまり、越後人特有  
の忍耐力、純朴さ、親切さ、嗜  
むべき味の出るスルメのような  
人間味——こんな越後人の良さを  
助長したいと願つたものである。  
今や政府も「地方の時代」と言  
中である。

それが反して当時の長岡市をよく  
う、二足の草鞋を履いては話  
もあるが、長年の兼職の場合は外  
うまくいって来た。

また昭和四十年代は都市化傾向  
の著しき時代でもあった。  
私などは集会所のたぐいに物置  
的な都市化の進むことは止むを得  
ぬにしても、心の都市化傾向だけ  
は向とが防ぎたいと願ひ断えたこ  
とを今でも記憶している。  
そして「ふるさとの良さ」を見  
つめよう、つまり、越後人特有  
の忍耐力、純朴さ、親切さ、嗜  
むべき味の出るスルメのような  
人間味——こんな越後人の良さを  
助長したいと願つたものである。  
今や政府も「地方の時代」と言  
中である。

それが反して当時の長岡市をよく  
う、二足の草鞋を履いては話  
もあるが、長年の兼職の場合は外  
うまくいって来た。

また昭和四十年代は都市化傾向  
の著しき時代でもあった。  
私などは集会所のたぐいに物置  
的な都市化の進むことは止むを得  
ぬにしても、心の都市化傾向だけ  
は向とが防ぎたいと願ひ断えたこ  
とを今でも記憶している。  
そして「ふるさとの良さ」を見  
つめよう、つまり、越後人特有  
の忍耐力、純朴さ、親切さ、嗜  
むべき味の出るスルメのような  
人間味——こんな越後人の良さを  
助長したいと願つたものである。  
今や政府も「地方の時代」と言  
中である。

それが反して当時の長岡市をよく  
う、二足の草鞋を履いては話  
もあるが、長年の兼職の場合は外  
うまくいって来た。

また昭和四十年代は都市化傾向  
の著しき時代でもあった。  
私などは集会所のたぐいに物置  
的な都市化の進むことは止むを得  
ぬにしても、心の都市化傾向だけ  
は向とが防ぎたいと願ひ断えたこ  
とを今でも記憶している。  
そして「ふるさとの良さ」を見  
つめよう、つまり、越後人特有  
の忍耐力、純朴さ、親切さ、嗜  
むべき味の出るスルメのような  
人間味——こんな越後人の良さを  
助長したいと願つたものである。  
今や政府も「地方の時代」と言  
中である。

それが反して当時の長岡市をよく  
う、二足の草鞋を履いては話  
もあるが、長年の兼職の場合は外  
うまくいって来た。

また昭和四十年代は都市化傾向  
の著しき時代でもあった。  
私などは集会所のたぐいに物置  
的な都市化の進むことは止むを得  
ぬにしても、心の都市化傾向だけ  
は向とが防ぎたいと願ひ断えたこ  
とを今でも記憶している。  
そして「ふるさとの良さ」を見  
つめよう、つまり、越後人特有  
の忍耐力、純朴さ、親切さ、嗜  
むべき味の出るスルメのような  
人間味——こんな越後人の良さを  
助長したいと願つたものである。  
今や政府も「地方の時代」と言  
中である。

どうか、お題目だけの空想に  
終らぬように努力をしていただき  
たいものである。

地方の最末端組織は町内会、  
その拠点の場は町内公民館であ  
る。最近各団地で、町内公民館の  
建設希望の声が強い。  
そこで昔の隣人愛の精神が甦る  
ならば本当に嬉しいことである。

筆者 紹介  
昭和四十四年から四十七年まで  
長岡市中央公民館長を勤められた  
山崎さん。その後市教委総務課  
長、中越青少年文化センター所  
長、市長公室付主幹などを歴任、  
現在は同市庶務部主幹として活躍  
中である。

さて昭和46年の県公民館大会  
(長岡会場)では、長年連れ添っ  
てこられた奥さんを亡くされて  
いう不幸に遭遇されたが、その悲  
しみを乗り越えて県大会を成功に  
導いた姿が思い出される。

あとがき  
近年まれにみる寒害というこ  
とで、なにかと苦勞の多い日  
頃と思ひます。  
世情もなやみあやしい寒行  
きで、心にかかる年明けとな  
たよです。

前身訂正  
「あの頃のこと」前身の執筆  
者横山旭三郎氏の肩書きを次の  
ように訂正してお詫びいたしま  
す。  
前岡市民俗資料館長